

水稲用除草剤適正使用について

公益財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会では、水稲用除草剤の効果の安定と水田外への流出防止のため、散布前後の水管理の徹底を啓発する事業を行っています。その一環として、とくに散布後7日間落水、かけ流しをしないよう注意を促すキャンペーン広告を、会員会社の協力を得て、4月から5月に日本農業新聞上に掲載し、その記事を植調協会ホームページでも紹介しています。

一般に、水稲用除草剤は、散布後有効成分が水中に溶け出し、水田水を介して水田土壌の表面に拡がって除草効果を発揮するため、散布後

に止水し、水を水田の外に流さないことは、除草効果を安定させるとともに水田外への成分の流出を防ぐことになります。

この除草剤適正使用キャンペーンは、畦畔の整備とともに散布後7日間、水を水田の外に出さないよう周知徹底を図るものです。

今回は、かけ流しをさせないための水管理法として、水稲用除草剤散布後水田水がなくなるまで給水しない止水管理も紹介しています。

以下に新聞広告を掲載致します。

新聞広告 (全7段)

水稲用除草剤散布後は、田んぼの水を外に出さない!

水田水に溶け出した薬剤成分の流出を防止し、安定した除草効果が得られます。

平成24年度 水稲用除草剤適正使用キャンペーン

除草剤処理後、水田水がなくなるまで給水しない止水管理

除草剤を処理した後、水田水が水田外に出ないように給水口を止め、さらに水田水がなくなるまでの期間は、給水も止める方法です。水田外の薬剤成分の流出防止を徹底できます。

- ①畦畔からの流れを妨げ水をしっかり溜める。
- ②給水を完全に止める。
- ③ラベル通りの薬剤散布。



水田水がなくなるまで給水しない止水管理の様式図

この止水管理を行うにあたって

- ①畦畔を水漏れがないように整備する。
 - ②田面の露出がないよう水を溜める。
 - ③給水口を水漏れしないようにふさぎ、給水を止める。
- ※2~3日間田面が露出しても、除草効果に影響しないことを確認しています。

注意

- 低湿対策等、表層上灌水が必要な場合は適宜給水して灌水管理に努めるが、オーバーフローさせないように注意する。
- 水田水がなくなったら給水する(オーバーフローさせないように注意)。

1 水稲用除草剤の散布後7日間は、落水、かけ流しをしない!

2 田植前の散布でも、散布後7日間は落水しない!

3 畦畔のひび、穴を補修し、事前に水持ちを確認する!

このキャンペーンに協力、推進しています。

アピロトップMX(アピロキオMX)1キロ錠76/51
アルハーブコソアブル
イッポン1キロ錠76/51(1キロ錠76/51)フロアブル
イネキング1キロ錠76/51フロアブル
イネ10Xアップ1キロ錠76/51
エーワン1キロ錠76/51フロアブル

キクンジャーZ1キロ錠
クサトリ-DX1キロ錠76/51フロアブル
グットスター1キロ錠76/51フロアブル
シロノク1キロ錠76/51フロアブル
スタート1キロ錠76/51
ドクジガード1キロ錠76/51

パッチリ1キロ錠76/51フロアブル
早稲1キロ錠
ピクラーZ1キロ錠76/51フロアブル
ポスターガード1キロ錠76/51フロアブル
メダオ1キロ錠76/51
サイバ1キロ錠76/51フロアブル

平成24年度 キャンペーン協賛会社

石原産業株式会社
株式会社 エスディエー エイバイオテック
協友アグリ株式会社
クニイ化学工業株式会社
シンジェンタジャパン株式会社
住友化学株式会社

デュボン株式会社
日産化学工業株式会社
日本薬業株式会社
バイオテクノロジーズ株式会社
BASFジャパン株式会社
北興化学工業株式会社
三井化学アグロ株式会社

公益財団法人 日本植物調節剤研究協会 <http://www.japrr.or.jp/>